インターコミュニケーション・センターにおけることばの扱い
－コンピュータを使用した言語表現の拡張と可能性－

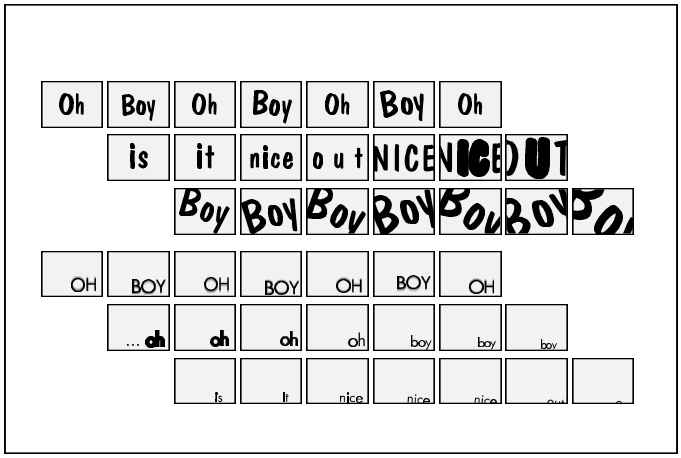
伊東祥次（NTTインターコミュニケーション・センター）
〒163-1404東京都新宿区西新宿3-20-2東京オペラシティタワー4階
itoh.shoji@ntticc.or.jp

写真、映画、ビデオ、コンピュータなど、技術の進歩はつねに、アーティストの表現方法の可能性を豊かにし、大きくしてきました。とりわけ、最近のディジタル技術の進展は、これまでの芸術文化の枠組みを大きく変え、ジャンルを超えて新しい芸術文化の創造を模索する動きは世界中で始まっています。

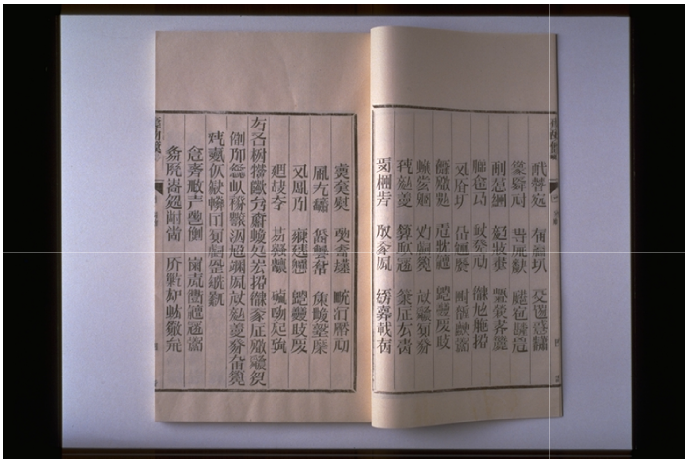
ICCは「コミュニケーション」というテーマを軸に、科学技術と芸術文化の対話を促進し、豊かな未来社会を構想していくことを目指したミュージアムです。こうした対話に挑むアーティストを世界的に結び付けるネットワークの拠点，情報交流の拠点を目指すセンターでもあります。

ICCでは、最先端のヴァーチュアル・リアリティやインタラクティヴ技術などの電子テクノロジーを使った作品、従来の枠組みにとらわれない実験的な作品等、新しい流れを積極的に紹介して参ります。もちろん、たんに作品の展示に止まらず、新しい表現やコミュニケーションの可能性に挑むアーティストを支援するため、従来のジャンルを超えたワークショップ、パフォーマンス、シンポジウムなどさまざまなプログラムも用意しています。

ここでは，ICCが1997年の開館以来行なってきた，さまざまなイヴェントの中から「ことば」をテーマとしたメディア・アート作品，作品情報案内の実験，また，今後の展望を紹介します.



1999年6月22日～7月20日に開催された「メディアの足し算，記号の引き算」展に出品された石崎豪氏「キネティック・タイポグラフィ」



1998年9月18日～10月25日に開催された「企画展・バベルの図書館」展に出品された徐冰（シュー・ビン）氏による「新英文書入門」（1994-96）

写真：桜井ただひさ